



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2016年5・6月
第310号

病院だより第310号 (2016年5・6月号)

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 田中 淳一
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

消化器内科医長に就任して

藤が丘病院 消化器内科 医長 長濱 正亞

この度、本年4月より昭和大学藤が丘病院消化器内科医長を拝命しました長濱と申します。1992年に横浜市立大学医学部を卒業後、同医学部第三内科に入局し消化器内科学を専攻しました。特に内視鏡診療に興味があり、本邦でも有数の先進内視鏡診療を行っていた昭和大学藤が丘病院消化器内科で前教授の高橋寛先生のもと、上部内視鏡の研修を開始しました。その研修を通して藤が丘病院の内視鏡診療に魅力を感じ、1998年より藤が丘病院消化器内科に移籍し内視鏡診療、特にERCPを中心として臨床研究を行ってまいりました。



当科は内視鏡的乳頭切開術の開発者の1人である藤田力也先生が1991年に本邦では先駆けとなる内視鏡センターを立ち上げ、1995年に昭和大学国際内視鏡教育センターを創設し各国からの研修生を受け入れてきた歴史があります。そのため当初より各領域の内視鏡先進医療を積極的に取り入れてきた経緯があり、今後も拡大内視鏡診断、カプセル内視鏡、小腸内視鏡での診断、内視鏡的粘膜剥離術、内視鏡的胆道結石除去術、内視鏡的胆道ドレナージ術、超音波内視鏡下治療等の内視鏡治療、消化管出血や急性胆管炎などの救急消化器疾患の内視鏡治療について診療と臨床研究を活発に行っていきたいと考えています。近年では高齢化社会の到来により、多くの疾患が複合した患者さんが増加しています。抗血栓薬の内服も多く認められ、内視鏡診療に大きく影響しています。また消化器疾患も総胆管結石などの胆道疾患や膵臓癌が増加してきました。求められる診療のニーズも症状緩和とQOL改善という観点がより重要視されています。このような中で低侵襲な内視鏡診療はますます広がっていくと考えられます。さらに科を超えてチーム医療を行う必要性は高まっており、医療経済についても考慮した医療が求められております。医局員一同、チーム医療の実践と医療経済を理解した診療を目指して頑張ります。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

血液内科医長に就任して

藤が丘病院 血液内科 医長 原田 浩史

この度、2016年4月に昭和大学藤が丘病院血液内科の医長を拝命いたしました原田浩史です。どうぞよろしくお願ひいたします。私は1989年に寺田秀夫教授のもとで血液内科医としてのキャリアをスタートし、以後、小峰光博教授、森啓教授のもとで貧血などの良性疾患や、白血病、リンパ腫などの悪性疾患まで多くの患者さんの治療に携わってまいりました。これまで先輩方が作り上げてきたことを引き継ぐ立場になり、身の引き締まる思いです。



血液内科というと、他の内科分野に比べて一般にはなじみが薄いかも知れませんが、私はサラリーマン家庭の出身で、血液内科を選択したことを両親に報告した時も、あまり理解してもらえませんでした。時代が変わりましたので、だいぶ変化してきましたが、一般の認識はまだ乏しいと思います。実際、消化器や循環器の疾患、糖尿病・高脂血症などの代謝性疾患などと比較すると、患者さんの数はかなり限られています。しかし、逆に血液疾患に対応できる病院も限られています。昨今は、多くの疾患で内科治療の治療法が進歩しましたが、その中でも血液疾患の治療法の進歩は、目を見張るものがあります。以前は難治性であった悪性の血液疾患が、薬物療法で治療が期待できるようになってきました。しかし、以前は行われなかった強力な治療は危険性も高く、以前より高い専門性が要求されるようになっていきました。また、以前は入院でしか行えなかった治療が、補助療法などの進歩から、外来で実施可能になるなどの変化も生じました。地域の基幹病院として、専門性を発揮しつつ活動していきたいと思ひます。

近隣の先生方には血液疾患が疑われる方がいらした場合にはお気軽にお声をかけていただきたいと思ひます。また、医学生や研修医に対する指導も重要な仕事です。一人前の内科医になるためには内科の各分野を経験する必要がありますが、ぜひ研修医の皆さんとも一緒に勉強していきたいと思ひます。

平成28年度第1回公開講座のお知らせ

開催日時 : 平成28年7月2日(土) 14:00~16:00(開場 13:30)

開催場所 : 昭和大学藤が丘病院 C棟1階臨床講堂

プログラム : 『認知症予防と治療の重要性 ~認知症ってどんな病気、糖尿病との関連は?~』

加藤 大貴 昭和大学藤が丘病院脳神経内科 講師

『高齢者とクスリ ~薬との上手な付き合い方~』

藤原 久登 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院薬局・昭和大学薬学部病院薬剤学講座 助教

※事前申し込みは不要です。当日、直接会場へお越しください。

昭和大学藤が丘病院 CLI（重症下肢虚血）センター開設の御挨拶

昭和大学藤が丘病院 CLIセンター長 鈴木 洋

1. CLI(重症下肢虚血)とは

高血圧、糖尿病、高脂血症(脂質異常症)といった生活習慣病の増加にともない、心筋梗塞や脳卒中に加えて、足の血管の病気である閉塞性動脈硬化症が増加しています。加齢現象もこういった病気の危険因子であり、高齢化社会をおかえ閉塞性動脈硬化症やその重症型であるCLIの頻度は確実に増加しています。CLIになると安静時にも痛みが持続し、進行すると足に潰瘍ができてたり壊疽が出現したりします。最悪の場合には下肢の切断が必要となり、Quality of Life が著しく落ちてしまいます。CLI 患者の5年生存率は50%程度といわれ、早期癌よりも生存率が低い重篤な病気です。



2. 昭和大学藤が丘病院 CLIセンター開設

当院では2008年よりCLI患者を総合的に診察し治療するシステムを確立し、循環器内科、形成外科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、皮膚科、心臓血管外科、生理機能検査室等で各科の枠を超えて患者治療を行ってきました(図)。

創の局所処置、カテーテルによる血管内治療、バイパス手術、再生医療等の患者個々に最適であるあらゆる治療が当センターでは可能です。また、生活習慣

藤が丘CLI(重症下肢虚血)センター



病管理が極めて重要なことより多くの内科も治療に参加しています。以前より院内診療班として活動をしていましたが、今回センター開設にともない、形成外科における創傷外来、近隣透析クリニックとのCLI予約外来等をより充実させていきます。

上記のような症状をお持ちの患者さまに関して、かかりつけ医、近隣病院の先生方は簡単な紹介状作成していただき循環器内科の受診をお勧めください。すでに潰瘍や壊疽がある方は形成外科受診でも結構です。当院の地域連携室(045-974-6701)で電話予約が可能ですので是非ご利用いただければと思います。今後ともよろしく願い致します。

新人からのメッセージ 研修医の所信表明

昭和大学藤が丘病院 研修医 柿 佑樹

私は医学部での学生生活を終え、今ようやく医師としてのスタートラインに立ちました。医師を志したときから随分と長い時間が経ったように感じます。やっと憧れであった医師として社会で活躍できるという喜び、一



方で経験の浅い私が白衣姿で病棟に立ち、先生と呼ばれる不安。学生の時、実習などでみた諸先輩方の背中とはとても大きく、頼もしく見えました。コメディカルからは指示を求められ、患者さんからは質問をされたり、説明を求められたりしている中で、それらに対応する先生方は憧れてした。

藤が丘病院での研修を終える2年後には、ここ藤が丘病院で研修をしてよかったと思えるように、いろいろなことにチャレンジし、自ら進んで学び、そして同期とともに助け合いながら、実りのある研修医生活を送りたいと思います。未熟な私ですが1日も早く仕事を覚え、病院の戦力となり、地域に貢献できるように頑張ります。

新人からのメッセージ 看護師1年目の抱負

リビ リー・ソウ病院 2階病棟 看護師 伊地知 志門

私は今年4月より藤が丘リハビリテーション病院2階病棟に勤務している新人看護師です。私の勤めている病棟は、脳神経疾患や、整形外科疾患の患者さんの回復期リハビリ病棟で、多職種と協働して機能回復や社会・家庭復帰に向けた支援をしています。入社して2か月ほど経ちましたが、自分一人で行える業務は少なく、分からないことも多々あります。新人としてのこの1年間は研修に参加したり、先輩看護師と一緒にケアに参加し指導を仰いだりして、知識や技術を身に付けたいと思います。また、患者さんに対し笑顔で明るく信頼される看護師になりたいと思っています。



まだ社会人1年目であり不安なことが多くあります。困ったことや分からないことは一人で悩まず、先輩や同期に相談していきたいと思っています。さらに、社会人としてのマナー等を身に付けていけるよう励んでいきたいと思っています。

新人からのメッセージ 理学療法士として働き始めて

リビ リー・ソウ病院 リビ リー・ソウセンター 高橋 知之

本年度、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院に入職した新人理学療法士です。私は高校1年生の秋に部活動で肩を怪我したときから、将来、理学療法士として働きたいと考えていました。入社した当初は“理学療法士になる”というおよそ7年越しの夢を叶えた喜びでいっぱいでした。しかし、臨床の現場で患者さんと向き合い始めて2か月がたった今、気が付いたことがあります。それは、まだ理学療法士としてのスタートラインに立ったに過ぎないということです。身体機能の向上、生活環境の改善、適切なゴール設定など、患者さんの社会復帰を支援するためには、達成しなくてはならないことがたくさんあります。



知識、技術ともに未熟な私ですが、優しい先輩方にいろいろなことを教えていただきながら日々の臨床に臨んでいます。一日でも早く、患者さんの力になれる理学療法士になりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

新人からのメッセージ

新人薬剤師として

藤が丘病院 薬局 東野 真弓

今年度より、薬剤師として昭和大学藤が丘病院に入職致しました。

昨年度は、薬剤師レジデントとして半年間、藤が丘病院で研修させて頂き、先輩薬剤師だけでなく、医師、看護師など多くのスタッフにお世話になりました。病気や治療のことだけでなく、医療人としての姿勢など多くのことを研修させて頂きました。常に新しい学びを与えてくださる熱心な先生方、切磋琢磨できる同僚、恵まれた環境に大変感謝しています。

今後は、医療チームの一員として、患者さんの適切な薬物治療に貢献できるよう、日々精進していきたいと考えています。また、教育職員として学生やレジデントの指導に対しても情熱を注ぎ、共に成長できるよう努力していきたいと思っております。まだまだ未熟な私ですがご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新人からのメッセージ

「チーム医療」を実感

藤が丘病院 管理課 丸山 美由紀

藤が丘病院の管理課に配属され、1か月半が経過しました。配属当初は、飛び交う医療用語も全くわからず、ここで自分が働いていけるのか大きな不安を感じていましたが、ほんの少しずつこの環境にも慣れてきたように感じています。

私が働く管理課の仕事は、簡単に言うと医療スタッフと患者さんをはじめとする地域社会とを橋渡しするコーディネーターです。どんな業務も一人で完結する仕事ではなく、医療スタッフとの連携が欠かせません。まさに「チーム医療」です。その「チーム医療」の一員として、まだまだ私にできることは少ないですが、昭和大学、そして地域社会に還元していけるよう努力し続けたいと思っております。



院内部署紹介

当院の特徴を活かした薬局へ

リハビリテーション病院 薬局 香川 恭子

藤が丘リハビリテーション病院薬局は、現在5名の薬剤師で調剤、服薬指導、無菌製剤の調整、医薬品情報提供等の業務を行っています。

また「臨床現場において真に貢献できる薬剤師」を目指して

全病棟に薬剤師を配置し、持参薬確認、処方設計、薬物血中濃度の解析等の治療モニタ



リングや処方提案を実施し、患者さんの健康とQOLの向上につながる業務を心掛けています。

さらに、当院は慢性期の患者さんやご高齢の患者さんが多いため、加齢による機能低下から起きやすい副作用の防止や、嚥下機能を考慮した薬剤の剤形変更など、常に薬剤師の視点で患者さんに関わるように努めています。最近では多職種カンファレンスにも積極的に参加し、互いに適切なアドバイスをを行い、さらに質の高い薬物療法の支援を行っています。今後も藤が丘病院との連携を維持しながら、安全で質の高い医療提供を支えるための薬剤業務を展開していきたいと考えています。

院内部署紹介

専門職能チームによるチーム医療の推進

藤が丘病院 6階病棟 師長 樋口恵子

6階病棟は外科系混合病棟で東西に分かれており、東は整形外科46床、西は整形外科と泌尿器科の計40床で編成されています。整形外科では、股関節疾患・脊椎疾患・膝関節疾患・肩肘疾患・外傷などの急性期治療を対象とし、泌尿器科は、腎尿路系・前立腺・陰茎・精巣など各臓器の炎症に対する内科的治療や、癌に対する抗癌剤治療、外科的治療を行っています。

今年度の部署目標として①スタッフ間での電子カルテの指示出し・受け時のコミュニケーションを強化し、安全かつ確実な治療を提供します。②高齢患者の誤嚥性肺炎対策を強化し、医療チーム全体で術後合併症を予防します。③倫理的配慮に関する多職種カンファレンスを推進します。を掲げています。入院患者の高齢化が著しい昨今において、高齢者の安全な術後管理と倫理的配慮の強化は社会から求められている責務であります。専門職能チームによるチーム医療を強化し地域連携の推進に日々奮闘しています。



スキルアップセミナー・ベ－シックコース開催されました

藤が丘病院 管理課 吉田 なつみ

4月2日(土)、「テルモメディカルプラネックス」(神奈川県足柄上郡)にて、初期臨床研修医・歯科研修医・薬剤師レジデントを対象としたスキルアップセミナー・ベ－シックコースが開催されました。今回は、イン



ストラクチャーの他に、初期臨床研修医2年次を各チームに1名ずつ配置し、2年次が1年次を指導する形式で充実したセミナーを行うことができました。実際に現場で使用する医療機器や本格的なシミュレーターなどを用いての実践的な手技講習は、参加者から大変好評でした。セミナー終了後は懇親会を行い、コーディネーターの消化器・一般外科 田中教授より参加者へ修了証、研修管理委員長の腫瘍内科・緩和医療科 市川教授よりインストラクターへ感謝状がそれぞれ授与されました。また、表彰式では各インストラクターの点数評価を基に5つの賞が設けられ、表彰者に高橋院長・田中教授・市川教授・向後薬局長・歯科松浦助教より賞状と記念品が贈呈されました。

「看護の日」を終えて
 昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院
 救命救急センター・ER 師長 田中 伸

「看護の日」をご存知でしょうか。看護の心、ケアの心、助け合いの心を育てていくため、近代看護を築いたフローレンス・ナインゲールの誕生日にちなみ5月12日に制定されました。

当日、昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院では、来院された患者さんやその家族の皆様へ記念品を配布しました。地域にとって病院や看護師が身近な存在となり、安心して病院を訪れることができるよう、患者さんと触れ合うことが大切であると考えています。地域に根ざして、患者さんと家族の皆様にとってより暖かい病院となれるよう「看護の日」の活動を続けていきたいと思っております。



第18回藤が丘地域連携フォーラム開催されました
 藤が丘病院 医療推進課 医療連携係 圓乗 佑太

4月14日(木)、藤が丘病院にて第18回藤が丘地域連携フォーラムが開催され、地域医療機関94施設100名の方にご参加いただきました。また当院からも各診療科医師をはじめ看護師、コメディカル、メディカルソーシャルワーカー、連携担当事務等が多数参加しました。

講演会では、下記の講演が行われ、活発な質疑がなされました。懇親会では、藤が丘



病院関係者108名も参加し、合計208名が集い、限られた時間ではありましたが情報交換とともに親睦を深めることができました。

次回、第19回地域連携フォーラムは、7月14日(木)に開催を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。

**世界トライアスロン横浜大会に
 救急チームとして参加しました**
 藤が丘病院 救急医学科 宮本 和幸

5月14日(土)、15日(日)に、山下公園をメイン会場に行われた世界トライアスロン横浜大会(選手1,800名)にメディカルチームの一員として参加しました。今年も昭和大学からは、北部病院・藤が丘病院合わせて総勢30名近くが参加し、各所に分かれて選手のメディカルチェック、応急処置、救急搬送などに従事しました。例年参加されているスタッフの方々も多いようでした。

幸い2日も天候に恵まれ、救急救命士・自治体職員・海上保安庁・ボランティアの方々とともにチームとして一丸となり活動し、大きな事故もなく終えることができました。



第18回藤が丘地域連携フォーラム講演会
 1) 「花粉症と舌下免疫療法について」
 昭和大学藤が丘病院 耳鼻咽喉科 医長 小林 斉
 2) 「薬局・薬剤師の現状と今後の課題 ～地域のチーム医療の一員として～」
 青葉区薬剤師会 会長 山崎 秀之

診療統計 2016年4月・5月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2016年4月	2016年5月	2016年4月	2016年5月
外来患者数	26,525人 (1,061.0人)	25,155人 (1,093.7人)	4,064人 (162.6人)	3,715人 (161.5人)
入院患者数	15,213人 (507.1人)	15,125人 (487.9人)	5,068人 (168.9人)	5,107人 (164.7人)
紹介率	90.6%	86.7%	61.9%	56.7%
逆紹介率	59.6%	64.0%	71.3%	50.0%